

私たちの住む真弓南から少し足を伸ばせば、いろいろな発見がありますよ。ガイド本には載らないよもやま話や、横路それた話などをちょっと一口メモ『へえ!!そうなんだ』でお伝えしていきたいと思います。

第1回は「長弓寺に幻の三重塔があった」をお届けします。

歩いて数分、最も近場にある古刹・長弓寺は、奈良時代に聖武天皇の勅願により僧行基によって開創されたと伝えられ、鎌倉時代に堂塔が整えられた。本堂は「新和様」と呼ばれる鎌倉時代の代表的な寺院建築で、生駒市唯一の国宝建造物です。(自治会 HP のトップ画面左下を飾っています) また同時代に三重塔が建立されたといわれている。その三重塔の概要は不明であるが、名残を偲ばせる礎石が今も薬師院裏の高台にあります。近世には二層・三層部分が消失して、初層(塔台閣)のみが残っていたが、それも後に事情あって売却されてしまったとのこと。その初層が戦後(1954年)、東京・グランドプリンスホテル高輪の日本庭園に移築され、観音堂として蘇ったのです。観音堂は方三間の大きさで、これから想定すると、当時の長弓寺三重塔も立派な堂宇だったのではないだろうか。ひょっとして興福寺・三重塔(国宝 鎌倉時代に創建)と同等の三重塔があったのかもしれない。そう思うと塔跡の礎石に何かロマンを感じませんか。高輪の日本庭園は約20,000㎡におよぶ庭園内に四季折々の花木と歴史的史跡が点在し、訪れる人々たちを楽しませてくれます。中でも観音堂は夜にはライトアップされ、外国人客をはじめ多くの人々に人気があるようです。東京に行かれる機会があれば一度立ち寄り寄られてみては如何ですか。



興福寺三重塔(国宝)



プリンスホテル高輪・日本庭園にある
観音堂

(下)はライトアップされた観音堂



長弓寺三重塔跡の礎石

